



オープニングフォーラム

日 時 9月13日(土) 13:00~15:00
 会 場 札幌市コンベンションセンター「大ホール」

<開会>

ミニ・オペ 特定非営利活動法人 札幌室内歌劇場

田口 晃 (NPO全国フォーラム2003北海道会議 実行委員会代表)

NPOは真の民主主義の実現の担い手になりうるか

NPOは、社会的に認められ様々な期待が高まっている。しかし一方で、期待通りではないとの批判の声も出始め、NPOに対して社会の監視の目も厳しくなり始めている。では、NPOは何を目指し、何をを行い、どのように社会変革することを目的としている組織なのだろうか？

オープニングフォーラムでは、今回のフォーラムのテーマである「民主主義」について、それぞれの立場から語っていただき、「真の民主主義」の実現のために、NPOに何ができるのかを模索したい。また、この議論を2日間のセミナーや分科会、連続講座での議論の糧としたい。

鼎 談 者

上田 文雄 (札幌市長/前・特定非営利活動法人 北海道NPOサポートセンター 理事長)

北川 正恭 (早稲田大学大学院 公共経営研究科 教授/前・三重県 知事)

早瀬 昇 (社会福祉法人 大阪ボランティア協会 理事・事務局長/

特定非営利活動法人 日本NPOセンター 常務理事)

レセプション

- 全国のNPO関係者が一同に集まる機会です。
- 名刺交換や、情報交換などを通じて、ネットワーキングを深めるために、ぜひご参加下さい。

日 時 9月13日(土) 18:30~20:00
 会 場 札幌市コンベンションセンター「中ホール」
 参 加 費 2,500円 ※料理&ワンドリンク

※参加希望の方は、参加申込書に必ずご記入いただき、参加費の振込時にご入金願います。

フリーマーケット・オープンカフェ<一般公開>

日 時 9月13日(土) 12:30~20:30 14日(日) 9:30~16:30
 会 場 札幌市コンベンションセンター「大ホール」

※このコーナーへの出店等を希望の方は、現地事務局まで電話にてご連絡願います。

<情報スペース>

- 助成金情報コーナー 助成金情報の紹介と担当者による相談対応を予定
- 団体紹介コーナー 開催地のNPOおよび参加者の団体を資料やパネルで紹介
- ※フォーラム参加者は団体紹介資料を置くことができます。

<販売スペース>

- 書 籍 コ ー ナ ー 講師および実行委員会組織の発行するNPO関連書籍の販売
- お土産コーナー 北海道ならではの掘り出し物のお土産を販売
- オープンカフェ お疲れの方に、一息つく時間と場所を提供



テーマ1

地域再生

9/13

15:30～18:00<100名程度>

セミナー1 地域再生における住民自治のあり方とNPOと行政の役割

内 容 地域が主役となる政治が求められている。そのような時代状況の中、地域住民とNPOと行政の理想的な役割分担とは？ NPOが、行政施策の単なる下請けではなく、自らの発想に基づく企画を組み、地域住民との関係を深めながら、地域や、住民が活かされる仕組みを構築していくことが、今求められている。地域再生に向けてそれぞれの立場から考える。

論 点 「公共」について考える／社会サービスの担い手(誰がための自治なのか)／公益性を担うNPO活動

コーディネーター

- 田口 晃 (北海道大学大学院法学研究科 教授／特定非営利活動法人 NPO推進北海道会議 代表理事)

発題者

- 安藤 周治 (特定非営利活動法人 ひろしまNPOセンター 代表理事)

9/14

9:30～15:00<各50名程度>

分科会 1-A 広域合併と地域再生 ～NPOはどのような役割を果たせるか？～

内 容 現在約3000ある基礎自治体数を1/3近くにしようという市町村合併の問題を、単に行政執行区の枠組みの見直しとして静観するのではなく、自らが生活圏を再編する気持ちが必要なのではないだろうか。広域合併を行うことは、生活者としては、何がメリットで何がデメリットなのか？ その中でNPOに何ができるのだろうか？ 広域合併に直面している具体的な報告をもとに、住民自らが地域づくりを担うシステムづくりとNPOの可能性を考える。

論 点 地域を改革する視点／住民意識を改革する視点／公益性の再構築のすすめ方／生活圏における住民(市民)自治の復活について／多様なNPO活動による地域(生活圏)再構築のあり方

ファシリテーター

- 実吉 威 (特定非営利活動法人 市民活動センター神戸 専務理事・事務局長)

報告者

- 齊藤 弥生 (大阪大学大学院 人間科学 研究科 助教授)
- 坂村 暢一 (社会福祉士／特定非営利活動法人 いきいき生活支援夢という)

分科会 1-B 地域財産の再生 ～施設の活用を通してNPOによる地域再生を考える～

内 容 地域は、住む人の生活によって日々変化をし、それに伴い、必要だった施設や商店街がある時を境にして不要のものに変わっていくこともある。しかし、ほんの少し視点を変えてその利用を試みることで、地域財産である遊休施設が蘇る。そのプロセスに市民、NPOがかかわり、地域そのものの再生に結びつく。地域にある廃校、歴史的な建物、空き店舗等の再利用とそのプロセスに視点をあて、地域再生について考える。

論 点 地域財産は誰のもの？／再利用と地域再生／再生のアイデアと住民のニーズ

ファシリテーター

- 能村 聡 (京のアジェンダ21フォーラム事務局 コーディネーター)

報告者

- 吉村 八重子 (北海道ワーカーズコレクティブ連絡協議会 事務局長)
- 吉原 明香 (特定非営利活動法人 市民センターよこはま 事務局長)



テーマ2

地域連携

9/13

15:30~18:00<100名程度>

セミナー2 地域連携によって社会を変える

- 内 容 地域の中で、長い歴史の積み重ねから作り上げられてきた既存の組織と、社会の変化の中で新たなシステムとして活動を始めたNPOが、連携し活動することが地域を変える原動力になる。また、NPOが共通のテーマ(視点)で地域を越えて連携することにより、特定の地域の変化から日本の変化につながる。何かが動き出し、変わっていくことを実感できる連携のあり方を探る。
- 論 点 分野を越えたつながり/地域を越えたつながり/社会を変える戦略/構造改革特区の可能性

コーディネーター

- 宮内 泰介 (北海道大学文学部 助教授)

発題者

- 山田 実 (菜の花プロジェクトネットワーク 事務局長)
- 横市 英夫 (特定非営利活動法人 北海道B&B協会 理事長)

9/14

9:30~15:00<各50名程度>

分科会 2-A 地域内での連携の方法 ~異なる視点をどう共有化するか?~

- 内 容 地域を住民の目線で見つめた時、見つめる当事者(組織等)が違えば色々な顔がでてくる。それらの違いと共通点を探ることにより、地域情報の共有化が図られ、新たな地域の創造が図られるのではないかと。地域の課題に気付くことにNPOがどのように関わり、どんな役割を果たしていくのか? その可能性を考える。
- 論 点 自分たちが住む町に気付く/さまざまな目線で町を見直す/地域情報の共有/まちづくりの視

ファシリテーター

- 柳田 良造 (PRAHAまちづくり情報センター 代表)

報告者

- 佐々木 貴子 (北海道教育大学函館校 助教授)
- 根本 敏雄 (特定非営利活動法人 SANNet青森 代表)

分科会 2-B 地域間での連携の方法 ~地域を越えたネットワークの拡がりをつくるか?~

- 内 容 個性を活かした主体的な地域づくりを進めている成功事例が、他の地域においても豊かな資源や魅力の再発見につながっている。地域間のネットワークの広がりから、多様な地域間連携の促進が図られるとともに、新たな地域活性化の取り組みが生み出されていく。その地域間ネットワークの担い手としてのNPOの可能性について考える。
- 論 点 NPOが地域に関わり、地域を見つめていく時に必要なものとは何かを理想や論理的側面ではなく、すぐに実践可能なやり方を中心に考えていく。

ファシリテーター

- 田中 栄治 (特定非営利活動法人 地域交流センター 理事長)

報告者

- 鈴木 亨 (特定非営利活動法人 北海道グリーンファンド 事務局長)
- 依頼中



テーマ3

ミッションにこだわった事業

9/13

15:30~18:00<100名程度>

セミナー3 事業のミッション性をどう評価するか

内 容 NPOが活動の自己資金を得るために対価性のある事業をすることは、文化や福祉、環境保全、国際交流、まちづくりなど様々な分野へ広がっており、中には事業先行型のNPOも目立ち始めている。はたして、その事業内容は、組織のミッションを達成するための最適なものとなっているだろうか？ それぞれのメンバーで共有できているだろうか？ 地域での役割などを検証することの必要性と、事業のミッション性をどう評価するかじっくり考えたい（聞きたい）。

論 点 NPOの事業ミッション/NPOの評価

コーディネーター

- 今田 克司（日米コミュニティ・エクスチェンジ 代表）

発題者

- 石川 治江（特定非営利活動法人 ケア・センターやわらぎ 代表理事）
- 高木 晴光（特定非営利活動法人 ねおす 理事長）

9/14

9:30~15:00<各50名程度>

分科会 3-A NPOにふさわしいサービスとは？

内 容 サービスを受ける側にとっては、NPOが行うサービスであろうと、企業が行うサービスであろうと、サービスの内容や質そのものが、利用するかしないかを定めるポイントとなる。サービス提供型の事業を行うNPOが増えている中で、NPOだからこそできるNPOにふさわしいサービスとは何かを考える。

論 点 NPOのサービスとは/NPOがサービスを行うことの必要性/NPOにふさわしくないサービス/NPOと企業の競合

ファシリテーター

- 相川 康子（神戸新聞 論説委員）

報告者

- 伊井野 雄二（特定非営利活動法人 赤目の里山を育てる会 代表）

分科会 3-B コミュニティービジネスの担い手としてNPOに求められるもの

内 容 地域の人が、地域の資源を活かして地域の人のために行うのがコミュニティービジネスである。その担い手は、企業のような営利組織もあればNPOのような公益組織もある。また、生協のような共益型の組織もある。その中で、NPOにはどんな役割や機能が求められているのか。

論 点 先駆的なコミュニティービジネスとは？/地域再生に果たすコミュニティービジネスの役割/NPOか企業か生協か/NPOだからこそできるコミュニティービジネス

ファシリテーター

- 石川 両一（龍谷大学 経済学部 教授）

報告者

- 国枝 哲男（特定非営利活動法人 コミュニティ・サポートセンター神戸 事務局長）
- 藤木 千草（東京ワーカーズ・コレクティブ協同組合 理事長）



テーマ4

情報

9/13

15:30~18:00<100名程度>

セミナー4 市民社会を育てるメディアとは？

内容 多くの市民は今まで、情報が思うように得られなかったり、うまく発信できなかった。しかしインターネット等の普及により、情報の受発信は驚くほど容易になった。情報化時代になり、利便性や即効性などを活用し、より活発な活動が展開できるようになった反面、情報発信力や発信する情報の内容自体が問われるようになってきた。団体自身の情報基盤を強化することが、今後ますます重要になる。ここでは、市民社会全体を育てる視点を持ったメディアの重要性を考え、新たな可能性や課題、今後目指すべき方向性について学ぶ。

論点 市民やNPOにとっての情報の意味／情報発信ツール(電子媒体、紙媒体)の強み、弱み／何を発信すべきか／コストは誰が負担すべきか／日本に欠けているもの

コーディネーター

- 岡部 一明 (東邦学園大学経営学部 助教授)

発題者

- 大島 誠 (上越タイムス株式会社 代表取締役社長／特定非営利活動法人 くびき野NPOサポートセンター 理事長)

9/14

9:30~15:00<各50名程度>

分科会 4-A NPOの情報公開 ～組織の内外から信頼を得るには～

内容 支援者獲得とNPOの自律性の面において、誰に向かってどの程度情報公開をするべきなのだろうか？ また、情報を発信するために、NPOにはどのような工夫が求められるのだろうか？ 組織の内部はもとより、外部からも「信頼を得る」ための情報公開と信頼性のあり方について考える。

論点 信頼を得るための情報公開とは？／NPOにとってのアカウンタビリティ／情報公開によってNPOが得る評価とは？

ファシリテーター

- 雨森 孝悦 (日本福祉大学福祉経営学部 助教授)

報告者

- 大滝 和子 (司法書士／特定非営利活動法人 ホームヘルパーノア 理事長)
- 渡辺 龍也 (東京経済大学現代法学部 助教授)

分科会 4-B NPOの情報発信力 ～市民に向けた情報発信のあり方とは？～

内容 真に市民のためのNPOになるには、NPOそのものが市民のコミュニケーションの媒体手段(メディア)になることが重要になってくる。市民の抱えている問題や課題についての的確な情報を収集・中継・発信できなければならない。ではどのようにすればいいのか？ NPOにとっての情報化戦略について考える。

論点 メディアが市民社会にもたらしてきたものとは？／市民社会にとって必要なメディアとは、情報とは？／NPOが取り組んでいかなければならない情報化戦略とは？

ファシリテーター

- 石井 伸弘 (特定非営利活動法人 市民フォーラム21・NPOセンター 事務局次長)

報告者

- 浜田 忠久 (特定非営利活動法人 市民コンピュータコミュニケーション研究会(JCAFE) 代表)
- 森田 麻美子 (特定非営利活動法人 ボラナビ倶楽部 代表)



テーマ5



9/13

15:30～18:00<100名程度>

セミナー5 「個」を活かす組織・「組織」を活かす個

内 容 元来NPOは、他のセクターと違い、さまざまな市民の思いや参画を組織化して課題解決を行うしくみである。多様な人の智恵や思い、技術が組織を支え、継続の源となっている。しかし、現状では、担い手の不足や、事業を行ううえでの専門性の不足などが多くのNPOの課題となりつつある。NPOが公益の担い手として期待され、また新たな雇用先としての期待感も高まってきている中、改めて「個」の思いが活かされる組織のあり方、「組織」を活かす個(市民)の関わりを考えたい。

論 点 ボランティアなかわりのあり方/市民としての専門性のあり方

コーディネーター

- 中村 陽一 (立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科 教授)

発題者

- 播磨 靖夫 (特定非営利活動法人 日本NPOセンター 副代表理事/財団法人 たんぼぼの家 理事長)
- 金子 朝江 (生活協同組合 神奈川ゆめコープ 理事長)

9/14

9:30～15:00<各50名程度>

分科会 5-A 他セクター間の人の流動 ～企業や大学との連携によりNPOが新たな人を獲得するには?～

内 容 活動をより効果的に展開し、長期に継続させていくためには、より多くの新しい人材や専門性を持った人にかかわってもらいしくみをつくることが重要である。そのためには、多くの「人」を抱える企業や、研究機能を持つ大学などとの連携が人的基盤の厚みをつくる可能性を秘めている。セクターを越えた人の流動を実現するためには、NPOとしてどのような仕組みをつくりあげるかを議論する。

論 点 新たな仕組みとしてのインターン制度のあり方/大学におけるNPOの人の育成のあり方/
企業との連携における専門性の確保/退職後の新たな生き方としてのNPO/
専門家のかかわり方

ファシリテーター

- 馬淵 悟 (北海道東海大学国際文化学部 教授)

報告者

- 河辺 尚之 (杉並NPO・ボランティア活動推進センター 所長)
- 吉田 三千代 (特定非営利活動法人「飛んでけ!」車いすの会 事務局長)

分科会 5-B 組織内での人の役割 ～NPOにかかわる多様な担い手の役割と働き方の違いは?～

内 容 組織運営に責任をもつ理事、事業の運営を担うスタッフなど、NPOが活動を行う上ではいろいろな役割がある。また、働き方の形態も、常勤で働く人、パートタイムで働く人、ボランティアとしてかかわる人など、多様な働き方があり組織によってさまざまである。それらの特性をより効果的に活かし、よりよい活動を効果的にできる組織作りをしていくための方法について、組織の要となる事務局長の日々の取り組みを事例に議論する。

論 点 各役割の持つ意味/理事が果たすべき役割/事務局スタッフとしての働き方/
ボランティアな思いの活かし方

ファシリテーター

- 下澤 嶽 (前・特定非営利活動法人 シャプラニール=市民による海外協力の会 事務局長)

報告者

- 山口 育子 (特定非営利活動法人 ささえあい医療人権センター=COML 事務局長)
- 我妻 武 (DPI北海道ブロック会議準備室 事務局長)



テーマ6 資金

9/13

15:30~18:00<100名程度>

セミナー6 組織を活かすための資金源とは？

内 容 NPOの活動基盤の重要な要素として資金があげられるが、現状では資金基盤は脆弱である。そのため資金獲得のために収益の上がる事業へシフトする団体が増加する傾向にあり、そのことによる弊害が多数出始めている。その問題を解決するためには、多様な資金源が必要となってくる。それらの資金源をどのように作り出していくのか？ また、多様な資金源からの資金獲得をどのように進めるのか？ 各団体の資金バランスのあり方を検討するとともに、そのあり方を学ぶ。

論 点 資金の種類／資金源をどこに求めるのか／人を育てる資金源・育てない資金／団体における資金バランスの考え方(会費型、助成金型、自主事業型、委託事業型等)

コーディネーター

- 横田 能洋 (特定非営利活動法人 茨城NPOセンター・コモンズ 事務局長)

発題者

- 赤塚 俊和 (公認会計士)
- 大川 美和子 (特定非営利活動法人 コンビニの会 理事長)

9/14

9:30~15:00<各50名程度>

分科会 6-A 民間資金について考える ～新たな資金源のあり方について～

内 容 NPOの活動を支える資金源として、会費や寄付、助成金などがあるが、全ての団体がそれらの資金で十分な活動費がまかなえているわけではない。また、資金獲得のために自主事業を展開するにも、設立資金や繋ぎ資金などが必要になる。そのような現状の中、新たな融資制度や助成システムの開発が注目されている。NPOにとって必要な資金のあり方とは？ その仕組みや運営について議論する。

論 点 必要な資金のあり方／融資制度の仕組み／新たな助成金のあり方とそのプログラム

ファシリテーター

- 山口 郁子 (中央労働金庫営業推進部 広報室 調査役)

報告者

- 杉岡 直人 (北星学園大学大学院社会福祉学研究科 教授／特定非営利活動法人 北海道NPOバンク 理事長)
- 村上 良雄 (特定非営利活動法人 奈良NPOセンター 常務理事・事務局長)

分科会 6-B 公的資金について考える ～税金の使い道と政策とのかかわりについて～

内 容 NPOの活動を支える資金源として、最近急激に増えているのが、行政や地方自治体の補助金、助成金、委託金である。公的資金をNPOが使うことに対する是非も問われているが、つまりは、それぞれの資金の性格をきちんと理解し、税金の使い途について考えることであり、納税者にとってより効果的な活動に結びつけるにはどうすべきか？ という政策に関わることでもある。行政とNPOの協働の視点も取り入れながら議論する。

論 点 行政の施策による委託金はNPO支援なのか？／公益性をいかに測るか？／NPOが独自で行うべき事業なのか？／行政が行うべき事業なのか？

ファシリテーター

- 阿部 圭宏 (市民活動・NPOコーディネーター)

報告者

- 椎野 修平 (かながわ県民活動サポートセンター ボランティア活動推進 担当部長)
- 日置 真世 (特定非営利活動法人 地域生活支援ネットワークサロン 事務局代表)